

ASEAN Young Women Leadership Program

サンカルロス大学留学便り 最終回

経営学部2年 町田 夕樹

今年の3月末から約半年間続いたフィリピンのセブ島での留學生活がそろそろ終わりを迎えます。長い長いと思っていたのに いざ今となって考えてみると、今までで1番時の流れが早かったように感じます。今回の留學の話を受けたのが急だったっていうのもあって下調べもままならないまま出発してしまったので、色々とカルチャーショックも多く、、、(笑)これからフィリピン留學に興味がある方に向けて実体験も含め振り返ってみたいと思います。

そもそもフィリピンのセブ島ではビサヤ語という公用語があります。なのに なぜ国民のほとんどが英語を使えるのか？歴史を紐解くと、フィリピンは英語圏であるアメリカの植民地であった時代が長く、英語が浸透したそうです。英語が使えない＝日本という漢字の読み書きが出来ない、という認識が近いと思います。小学校から教科書や授業で英語が使用されており、英語が使えないと就職もままならないそうです。「日本人はどうして漢字が使えるの？」と聞かれても困るように、彼らも英語が喋れて当然のことみたいです。

フィリピン人は基本的に人懐っこいです。ホテルのガードマンやコンビニの店員さん、警備員など みんな気軽に話しかけてきたり、声をかけると笑顔で色々話をしてくれます。驚いたのが、仕事中でも堂々と携帯ゲームをしながらお菓子を食べ、口をもぐもぐさせたまま「いらっしやいませ～」と声をかけられたことです。日本では考えられない状況に思わず笑ってしまいました。タクシーの運転手もおしゃべりが多く、「日本のいすゞ自動車は最高だ！」とかマニアックな話をされて面倒くさかったです(笑)しかし、今の日本ではなかなか味わえない雰囲気、フィリピンにいる間は心が綺麗になった気がします。あと基本的にフィリピンの男性はチャライです。フィリピンは女性人口のほうが多く、女性が働き男は昼間からぶらぶらしているという家庭が多らしく、男性有利の恋愛市場のようで、男性は暇があればナンパしてきます。Facebookのアカウントを聞いてきて、教えると毎日ポエムが送られてきます。彼らにとってナンパはダメ元であたったらラッキーくらいの意識なので、女性陣は興味がなければ軽くスルーしたほうが良いと思います(笑)

まとめると、フィリピン留学は楽しいです！英語だけでなく、教科書には載っていない、生きていくために知っておかねばならないことが生で学べます。語学学校ではなく現地の普通の大学に通えたのも大きなポイントでした。英文法や英単語なんて自分でいくらでも勉強できますし、わざわざフィリピンまで行って教わることはありません。強制的に英語で意思疎通を取らなければならなかったのが、最後にはクラスメートに「Miss you」を連呼されるほど打ち解けることが出来ました。



大好きなクラスメートたち

こんなに海外に長期滞在するのは今回が初めてだったので、もちろんホームシックにもなりましたし日本で待つ友達と電話しながら涙することもありました。留学中は家族や友達の存在にとっても助けられました。そうやって日本で自分を待っていてくれる人がいるから今 私が海外にいれるのだと感謝の気持ちでいっぱいです。11月から後半戦、ミャンマーに4ヶ月間留学します。一旦気持ちをリセットし、新たな気持ちで新たな土地で頑張りたいと思います。



いつも一緒にいてくれた4人



研修旅行でのお気に入りの1枚